

エネオス エネゴリ エネファーム[※]



中エネファームは国の補助金対象商品です。
詳しくは燃料電池普及促進協会 (FCA) にお問い合わせ
下さい。(TEL:03-3508-0730 www.fca-enefarm.org)



2009年度「グッドデザイン・ライフスケーブデザイン賞
(経済産業大臣賞)」を受賞しました。

ENEOS 創エネハウスでエネファームのある暮らし、体験できます。詳しくはHPで。
www.eneos.co.jp/lande/product/soene/

希望小売価格は3,200,000円です。(消費税含む、工事費・オプション部品代別)
お客様相談室 0120-52-8704 / 営業時間 9:00-17:00 (土日祝日も除く)
www.eneos.co.jp



エネルギーを、ステキに。ENEOS

www.eneos.co.jp

新日本石油

ソーラーパネルを背負う、マイクロロボット誕生。

4ミリほどのハエサイズのロボット。小さいからといってあなどるなかれ。自在に歩行し、互いに通信し合い、データ蓄積ができるだけでなく、なんと動力源は太陽光というサステナブル系ロボットなのだ。

このロボットは、スウェーデン、スペイン、ドイツ、イタリア、スイスの研究チームが昆虫の習性からヒントを得て開発したもの。4本足のうちの3本で歩行し、残りの1本の足はタッチセンサーとなっている。ソフトウェアに依存するシステムを組んでいるため、行動のパターンを自由に組むことができる。そのため、精密機器の生産活動やセキュリティ監視・先端医療など、人間の手には届かない小

さなスペースでの細かい作業など、多分野での活用が期待されている。当面の課題は、どのようにして量産するか。願わくば、軍用だけには使われないように……。



開発初期段階のプロト版を紹介したのも。実際はもっと小さくなっている。

自転車坂をお知らせ!? 電動アシストITホイール。

取り付けるだけで自転車が電動アシストになって、IT機器とも連携するという「コペンハーゲンホイール」。現在MIT（マサチューセッツ工科大学）が開発中の注目グッズだ。このホイールは回生ブレーキを搭載し、減速時などに発電、その電気で走行をアシストする。

しかしスゴイのはそのIT対応力。まずはGPSを搭載し、iPhoneなどの携帯端末との連携を可能にしている。専用のアプリを使えば、道幅や起伏などの情報も手に入れることができ、それをもとに最適なルート案内してくれる自転車専用ナビにもなる。また、このアプリはサイクルコンピュータとしても機能するので、健康管理や、

気象情報も取得できるという。2010年内に発売予定ということで、詳細は不明だが、このホイールがあれば、どんな人でも楽しくサイクリングができる自転車になることだろう。



フォームも赤と白でかわいらしい。



Eco Watcher 24h

エコで持続可能で平和でわくわくな未来ニュース

文●鈴木菜央(greenz.jp編集長)

greenz.jp 今月のオススメ記事TOP3!

- 1位 週末は自然の中のフィットネスクラブで、身体も心も気持ちよく開放する!
- 2位 英国で使用済紙おむつリサイクル工場が誕生。
- 3位 デザイナー発、大人もハマる「やさいのカード」で遊んでみた。詳細は<http://greenz.jp/>を!

人体の約7割を占め、地球の約7割以上を覆う水は、生命にとって不可欠なもの。毎日我々が飲むミネラルウォーターのペットボトルには有害物質であるビスフェノールA (BPA) が含まれており、体と環境の汚染に繋がる。また、米国の「ミネラルウォーター」の大半は、実は水道水を浄水して販売しているだけなのだ。

しかし、ミネラルウォーターの常識を覆す会社「H₂Om」がLAから登場した。もともとエンターテインメント業界で活躍していたレックス・ラングとサンディー・フォックス夫妻は、ハワイで瞑想している時にミネラルウォーター会社を立ち上げることをひらめき、4年前にH₂Omを設立した。「LAの水道水には、塩素、クロロミン、フッ化物などが大量に

入っており、家庭の浄水器では汚染物を全て取り除くことができません。だから、私たちはサンディーエゴ北部の山にある全く化学物質に触れていない、ピュアで生きた湧き水を使用しています」と妻のサンディーさんが語った。また、ボトル、ラベル、流通はサステイナブルなものにこだわっており、チャリティや教育に積極的だ。

「BPAが一切入っていない100%リサイクルプラスチックのボトルを使っているため、2年間はボトルを使い続けられます。水やリサイクルの教育プログラム、アフリカの干ばつ地域に井戸を掘るプロジェクト、カーボンオフセット団体にも関わっています」とレックス氏が語る。

ボトルに「Love」や「Prosperity」(繁栄) などハッシュタグ「#H2OmWater」を付けて、TwitterやFacebookでシェアする活動は多岐にわたる。2006年から夫婦でLA在住。アキコ(ハル)チャアキコ Bharoocha ●オガニック好きなフォトグラファー&クリエイター。著書に「北沢のネコたち」。

最後にサンディーはこうメッセージを残してくれた。「未来の企業は、使命をもって、社会に還元をし、社会に及ぼす長期的影響を意識するべきです。消費者は、スーパーで商品を買うことが、選挙で一票を投じると同じだということを忘れてください」



① H₂Om 創立者のサンディー・フォックスとレックス・ラング夫妻。<http://www.h2omwater.com/>



② 水を飲みながらポジティブなメッセージを受け取れるように、ボトルには「LOVE」や「JOY」などの言葉が書かれている。



③ ハリウッドのレッドカーペットなどでも啓蒙活動を行い、多くのセレブが受飲。



④ 環境問題の教育や災害救済活動を行う(The Love Planet Foundation)にも協力。

第19回

California

Photographs by Akiko Bharoocha
Text by Hashim Bharoocha
Theme: ミネラルウォーターのニューウェイブ!

バルーチャ夫妻の
カリフォルニア・デロ・エト。